

船橋市生活と健康を守る会が 生活保護について市に要請

船橋市に要請する生活と健康を守る会の参加者。

11月27日・船橋市役所内



船橋市生活と健康を守る会準備会が船橋市に対して生活保護の改善を求めて要請を行いました。

要望項目は、①生活保護世帯

に対応する相談員やケースワーカーを増やすこと、②エアコンの電気代に充当する夏季加算の新設や冬季加算への市独自の上乗せ、③扶助対象にない冠婚葬祭などの交際費を市として助成すること、④通院移送費の支給申請を促すなど万全を尽くすこと、⑤毎年とされている「資産調査」はあくまでも自主的なものとするなどです。この他、母子加算の廃止を止めるよう国に要請することや憲法25条にもとづく国民の権利であることを周知することなども求めています。

市の担当者は、通院移送費について「前向きに検討したい」としたものの、資産調査については「国や県の指導で通帳の閲覧を行う」としてプライバシーに踏み込む回答を行いました。交際費の支給について参加者から、「夫が急死したとき、喪服もなく、花も棺に入れられなくて寂しい思いをした」との実態が出されました。

日本共産党の斉藤和子衆院議員が 船橋駅頭で国会報告

日本共産党の斉藤和子衆院議員が1月28日、船橋駅南口で国会報告街頭演説を行い、「平和と暮らしを守り、安倍政権を打倒するため、総選挙で野党共闘の前進と日本共産党を躍進させてください」と呼びかけました。斉藤議員は「安倍政権は、戦争法をはじめ、年金カット法、環太平洋連携協定（TPP）の承認、カジノ解禁法など、国民の反対の声に耳を貸さずに強行を重ねた」と厳しく批判。いまの国会でも、安倍総理が憲法改悪を求め人権を脅かす「共謀罪」の創設に意欲を示していることなどを指摘し、「こんな

暴走は許さないという願いを日本共産党へと託してください」と訴えました。この街頭演説には、日本共産党西部地区委員会の深津俊郎副委員長（千葉4区）や船橋市議会にも参加しました。



訴える斉藤和子衆院議員（右から2人目）と深津俊郎副委員長（右）。11月28日・JR船橋駅南口

日本共産党の地域支部が 飯山満川の水害対策で船橋市に要請

蛇行する飯山満川を直線化するための工事現場。

11月31日・飯山満町



日本共産党の地域支部が飯山満川の水害対策で船橋市に要請しました。

船橋市薬円台から始まり、西習志野から飯山満を抜けて海老

川に合流する飯山満川は、これまで繰り返し氾濫し、周辺の住宅に床上浸水などの被害を与えてきました。

今回の要望では、学校や公園に地下貯留槽を設置すること、窪地には緊急にポンプの設置などを進めること、浸透枳などを市の全額助成で設置すること、被災住宅への原状回復費用への助成制度を作ること、住宅のかさ上げや自家用車の水没を防ぐ工事費への助成制度を作ることなどです。

これまでも日本共産党は市に対策を求めてきましたが、逆流弁の設置や水があふれないためのかさ上げなどが実現してきました。今回の要請でも市の担当者は、新築住戸への浸透枳の設置について指導強化を約束しました。

上の写真は、飯山満川の流れを直線化するための工事現場です（県管理部分）。川幅に合わせてコンクリート板を埋め込み、その間を掘削して川にしています。写真は、掘削前の状況。

県民の不安に背を向け 木更津でオスブレイ定期整備を強行

整備工場は開所式も終わり本格的な整備が始まりますが、住民の不安はまったく消えていません。12月には沖縄で同じ日の同時刻に別々の場所で2機のオスブレイが事故を起こしています。事故の検証もやらずオスブレイを運用することなど許されません。

オスブレイ整備場を視察する斉藤和子衆院議員（右から3人目）と丸山慎一議員（その左）。11月25日・木更津駐屯地

